

第6回 滝沢市地域公共交通会議

議事録

日時：平成29年3月22日（水） 午後2：30～

場所：滝沢市役所 201・202 会議室

出席者(20名)：佐野峯茂（滝沢市副市長）、山下剛毅（岩手県交通㈱）、三上金昭（代理 荒屋敷 正剛 岩手県北自動車㈱）、大野尚彦（㈱ヒノヤタクシー）、佐藤利樹（一般社団法人岩手県タクシー協会）、齋藤朝男（ジェイアールバス東北㈱）、山口実（岩手県交通運輸産業労働組合協議会）、川村尚雄（滝沢市自治会連合会）、歳弘淳（滝沢市老人クラブ連合会）、上野幸子（滝沢市男女共同参画サポーターの会）、佐藤光保（㈱滝沢市社会福祉協議会）、阿部正喜（滝沢市商工会）、伊藤誠（国土交通省東北運輸局岩手運輸支局）、小原重幸（岩手県盛岡広域振興局経営企画部）、今野英伸（代理 村上裕樹 岩手県盛岡西警察署）、酒井裕二（東日本旅客鉄道㈱盛岡支社）、伊藤英和（国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所）、千葉幸司（岩手県盛岡広域振興局土木部）、太田城人（滝沢市都市整備部）、宇佐美誠史（岩手県立大学総合政策学部）

事務局：三上都市整備部長、大宮交通政策課長、佐藤総括主査、佐藤主査、竹本主査

○配布資料

資料1 計画策定スケジュール

資料2 意見・指摘事項及び対応について

滝沢市地域公共交通網形成計画

滝沢市地域公共交通網形成計画【概要版】

滝沢市公共交通マップ



- 1、開会
- 2、委嘱状交付
- 3、会長・副会長選任
- 4、議事

(1) 計画策定スケジュールについて(資料1)

宇佐美会長： よろしくお願ひします。

それでは最初の議事「(1) 計画策定スケジュールについて(資料1)」とありますが、ご説明の方をよろしくお願ひします。

事務局： ～「計画策定スケジュール(資料1)」説明～

宇佐美会長： 以前の乗降調査で使った調査カードが出てくるらしいですね。割と結構評判は良いです。ありがとうございました。

6月のスケジュールとプレパブリックコメントの実施の説明でしたが、何かご意見、ご質問等あればよろしくお願ひします。

特にない様でしたら次に進みたいと思います。

(2) 滝沢市地域公共交通網形成計画(素案)について

宇佐美会長： それでは今日のメインになりますが、「(2) 滝沢市地域公共交通網形成計画(素案)について」という事で、ご説明をお願ひします。

事務局： ～「滝沢市地域公共交通網形成計画【概要版】」P1-3 説明～

宇佐美会長： ここまでは確認という事でしたが、何かありますか。

うちの学生に聞いたら全然情報を持っていなくて、公共交通自体利用はしていても盛岡市との往復だけという事でした。交通手段だけの問題ではなく、もっと滝沢の街に出て遊んでもらう、日々の買い物等をしてもらえる様に出来ないかとはずっと考えている所です。これから新入生向けにどんどんアピールしていければいいなと思っていました。

よろしいでしょうか。では引き続きお願ひします。

事務局： ～「滝沢市地域公共交通網形成計画【概要版】」P4 説明～

宇佐美会長： 一旦止まりましょう。ここは結構意見が出るとお願ひします。

「ここはあるといいな」という所で出てきていますが、特に事業者からご意見を頂けるとありがたいです。運賃収入を集めて、距離に応じて配分する等色々考えていかないと、実行するとなれば色々課題があると思います。

委員： 共同運行となれば運行する事業者の中で収入を便数で按分してやっていきましょう、という中身になるかとお願ひします。県立大学へは車庫から運行しています。やはり運行本数があれば等間隔という考えもありますが、朝夕の通勤・通学に合わせた時間で各社とも時間設定をしています。そういった出先が違ふ所の時間設定等を考えると難しい部分もあり、そもそも共同運行という形自体、実現可能かと考えた時にハードルが高い部分もあります。ただ反面、もう少しバランス良くという所はあるかとお願ひしますので、出来る範囲でという事にはなってくるかとお願ひします。

経路の見直しについては、ビッグループ滝沢が4月に本格オープンしますの

で、滝沢市役所と営業所から来る路線の利用も増えてくると思います。こちらについても日中等であれば需要もあると思いますので、今後ご意見を頂きながら検討していきたいと考えています。

委員： 県交通の山下さんが仰られた事と考え方的には近いと思います。共同運行の部分については、出来る部分と難しい部分が出てきてしまいます。特に、例に出た路線であれば、距離が結構ある事、需要が一定でない事もあって、朝夕に偏ってしまった時に、供給側も需要に合わせてその時間帯に押し出して運行していたりします。そこを考えながらやれば、日中については効率的にバランスの取れた運行を見直せるかもしれません。じっくり考えてやらないと、どれが一番良い形なのか答えを見出すのはなかなか難しいと思います。

宇佐美会長： 僕も大学の人間として、学生自身も感じている事ですが、なるべく選択肢が多い事を期待しています。この辺は共同運行という名前ではなく、どういうものであれば利便性が良かつ収益に繋がるのかという辺りを、これから考えていけるといいなと思います。タクシーの話も出たので、よろしければご意見をお聞かせ下さい。

委員： タクシー協会盛岡支部です。この仕組みが今一つ分かっていません。グループタクシーという表現が使われていますが、例えば近隣の皆さんで時間を決めて相乗りをするという事でよろしいでしょうか。

事務局： そういうやり方もありますし、デマンド交通という言い方もあります。色々な考え方がありますが、地域の実情や交通事業者の都合に合った、小需要対応地域についての交通を考えている所です。今ここに書いたのはタクシーチケットの利用という事ですが、そういったものもあるという事です。

委員： これは現在、障害者の方に配布している、福祉タクシーの様なものとは全く違うものですか。

事務局： タクシーチケットだとイメージ的にはそういう形になります。例えば初乗り料金分を補助する等。

委員： 助成してもらえる人はどういう風に線引きをするのですか。

事務局： 先程話に出た、小需要対応地域にお住いの方、例えば年齢制限を設ける等、ある一定の条件を設定する様な形にはなると思います。まだ具体的な所までは検討してはいません。

委員： 実現出来そうな予算等はあるのですか。

事務局： タクシー事業者の運転手不足問題等、色々な条件があります。この計画は公共交通のマスタープランですので、計画作成後に基本目標についての詳細な検討を来年度から実行していく事になります。その時はまた改めてご相談したいと思います。

委員： タクシー協会です。岩手県の運賃は平成 24 年 10 月に改定されて、その時に何かメインになるものはないかという事で、従来、障害者割引しかありませんでしたが、運転免許証返納者割引というのを導入しました。この割引は各社が自腹を切り 1 割引で実施しています。PR が足りない為か「タクシー

が運転免許返納者割引を実施している」事を知らない方々も沢山いて、会議の席で色々PR して頂いています。

ただ急にどっと使われても事業者の方も痛手を被る事もあって、出来れば市町村で補助を出して頂けると大変助かると思っています。ぜひタクシーチケットの中に返納者割引も取り入れて頂ける様に、一つお願いしたいと思いません。

事務局： 前回の会議でも大野委員から話はありましたが、私個人的にはやりたいのは山々ですが、財政上の問題等があります。地域懇談会では運転免許返納者への1割引を知っている人もいて、使われている方もいました。近くても遠くても来てくれるので、便利でありがたいと意見も頂きました。路線バスだけでは賄えない部分はタクシーにご協力頂く事は一つあると思います。タクシー業者やバス事業者との調整を図りながら、効率的な交通モードを来年度から検討していきたいと思っていましたので、よろしく願いいたします。

宇佐美会長： ありがとうございます。他の委員の皆様はいかがでしょう。では続きの方をお願いします。

事務局： ～「滝沢市地域公共交通網形成計画【概要版】」P5 説明～

宇佐美会長： ありがとうございます。ここは色々アイデアが出せる所だと思いますので、今日の間でももちろんですが、今後色々と思い付いたら事務局までご提案頂ければと思います。まずは質問、コメント等あれば、よろしく願いします。滝沢 NAVI に関しては学生に聞いても誰一人知らない状況なので、入学ガイダンス時に入れてもいいかと話していました。

乗り方教室の所で「学生・高齢者」とすると、大学生と高齢者だけで小学生は入らないとも読み取れるので、もう少し広い言葉にしてもいいと思います。例えば小学生が親と一緒に乗車するという様な世代間で行かないと、小学生が一人でバスに乗る事はあまりないと思います。

委員： バスの乗り方教室について、運輸支局では「交通バリアフリー教室」を開催しています。小学生を対象に、体の不自由な状況を疑似体験してもらい、バスに乗る際どれだけ苦労があるのか理解してもらおう。その上で「席を譲りましょう」、「困っている人には手を差し伸べましょう」という事を植え付ける為に行っています。私の前任地では非常に盛んで、実際にバスを走らせて急ブレーキを掛けるという様な体験もしてもらいました。子供達は体験というか遊び半分で楽しんでいた気はしますが、それでもやらないよりは良いと思います。用具は東北6県共通で使用している為、かなり引っ張りだこです。早く手を挙げてやらないと計画だけあっても、実行出来ない事も想定されます。その辺はご検討下さい。

宇佐美会長： 今の話で思い出しましたが、各地でバス車両の死角を体験してもらおう事もやっています。バスにはミラーが沢山付いていますが、右左で同じだけ死角があるかというところではありません。どの部分が実際に見えているか、例えば自転車を使って行くと、ここは入ったら危ないという様にバスの事を理解

出来る様になります。バリアフリー等と一緒に進むと凄く良いのではと思います。

事務局：防災防犯課交通担当で、交通安全の関係で自転車の乗り方教室等をやっていますので、それとタイアップすると面白いのかなと思いました。今の様なご意見を参考に取入れていきたいと思っています。

宇佐美会長：死角の体験は知り合いが結構頑張っているんで、また紹介します。他はいかがでしょうか。では続きをお願いします。

事務局：～「滝沢市地域公共交通網形成計画【概要版】」P6 説明～

宇佐美会長：ありがとうございました。ここについてのご意見はいかがでしょうか。

委員：バスロケーションシステムについては新たにシステムを構築する形になるのでしょうか。盛岡市では既存のシステムを準用するといった方法でやっています。

事務局：これからの協議になるとは思いますが、新たに構築するとなると莫大な費用等が掛かると思います。個人的な意見ですが、既存のものを利用するのが現実的かと考えています。

宇佐美会長：この3-1上の左側の図でバスの接近情報というのがありますが、こういうものは凄くお金が掛かります。最近の液晶ディスプレイを使ったものだと幾らでも自由に変えられるので、現実的だと思います。後はスマホで接近情報を得られる形にする事もあると思います。ハード面はこれからの時代、特に地方では難しいのではと感じています。

事務局：実際にここまでになるとかなり費用や運用の仕方も大変になります。

宇佐美会長：当時としては凄く良かったと思いますが、これだと柔軟性がありません。この前京都に行ったら、昔はこういう感じだったのが、ここにデジタルサイネージを入れる事が大分増えてきていました。

その他いかがでしょうか。では続きをお願いします。

事務局：～「滝沢市地域公共交通網形成計画【概要版】」P7 説明～

宇佐美会長：ありがとうございます。

事務局：補足として、バスドライバーだけでなく、タクシードライバーの方も非常に少なく、そちらも含めてという事になります。

宇佐美会長：いかがでしょうか。

「市内企業におけるエコ通勤を推進する」というのは、何か想定されているものはありますか。

事務局：以前岩手県でやられていた「減クルマチャレンジ」の時には、市が窓口となり登録制で市内の主要な企業と一緒に進んだ経緯があります。登録制の為、県が対応していますが、今後は市が主導になって働きかける事になります。

宇佐美会長：そうすると「10月、11月にやっている」と言われたりするのではないですか。

事務局：そういう事も言われるのかもしれませんが、いずれは公共交通を利用して頂きたいという事でアピールしていきたいと思っています。

- 宇佐美会長：あれは年に一回でも結構長い期間やりますよね。大学にも毎年来ています。他はいかがでしょうか。
- 委員：ドライバーの今の現状をご紹介して頂ければと思います。
- 委員：運転手不足という所では、ここ 2、3 年は大分厳しい状況が続いていて、会社としても募集や PR は新聞チラシ等でもやっています。月に 2、3 人の入社はありますが、それ以上に定年を迎える方も沢山いますので、しばらく減少傾向は続くのかなという所です。資料にも人員がいない為、サービスの縮小とありますが、需要がある所の便数は確保して参りたいとは思っています。盛岡市・滝沢市といった所はバスを多く使って頂いているので、会社としては営業エリアの中で収支が悪い所を中心に、利用実態に合わせた見直しを今後も進めていかないといけないとは考えています。そこも含めて利便性の確保、需要に応じた便数の整理はご相談させて頂きながら進めていきたいと考えています。
- 委員：岩手県交通とさほど変わらず、厳しい状態は続いています。今まである程度主力となって活躍してきた乗務員の年齢が高くなり、定年を迎え始めている状況です。そのボリュームのある層の方が退職する一方、入社する人が少ないので、一気に乗務員不足が出てきています。全国のバス会社も同様の状況で、各社とも工夫を凝らして募集を続けています。従来のバス会社は大型や大型二種の経験者を優先的に採用していましたが、それだけでは足りないので、大型免許所持者には入社後大型二種を取得してもらい社内研修を実施してからバスに乗車させる。もしくは多少時間は掛かるが普通免許からでも可という方針になってきています。当社でも高校を卒業した段階から将来の運転手候補として働いてもらい、免許が取れる年齢になったら取得する取り組みもしています。若い世代から教育をして、運転手不足によるサービスの低下を防ごうと頑張っている状況です。ただ、すぐに退職するケースも多く、常に募集していないといけません。基本的に雇用環境を整備する事が一番重要です。そうすると、どうやってバスに乗って頂くかという事に直結する話にもなってくると考えています。
- 委員：今までタクシーの運転手は大型二種免許を持っていればすぐ採用という事でしたが、平成 27 年 10 月から運転手の登録制度が始まって、「法令・安全・接遇・地理」の 4 項目の試験を通らないと登録出来ない事になっています。岩手県の運転手の平均年齢は 59.3 歳で、約 2,900 名の運転手が登録されています。やはり新規採用は難しい状況になっていますので、まず定着率を確保して辞めさせない様な対応をして下さいという事で各社へ指導をしています。そういう苦しい事情です。
- 委員：ジェイアールバスです。運転手不足はどここのバス会社でも同じで、県北バスからお話しがありましたが、当社でも高校を卒業した 18 歳の学生を採用しています。バスの免許取得までは他の仕事をしてもらい、取得可能年齢になったら会社でお金を出して取得してもらい、その後に配置をするという事で

やっています。大型二種免許取得者は入社しないので、免許のない方が入社すると訓練で大体3か月位は掛かります。その間は人手が足りない中、先生を付けないといけないのでかなり厳しい。その方が一人前になって長く働いてもらえればいいのですが、1ヶ月位で辞めてしまう状況です。また、山形県を除いた東北5県に営業所があるので、需要に応じて2、3年間仙台や青森に転勤をして頂いて、要員配置をしているという状況です。

委員：ありがとうございました。

宇佐美会長：よろしいでしょうか。では最後の部分をお願いします。

事務局：～「滝沢市地域公共交通網形成計画【概要版】」P8 上説明～

宇佐美会長：目標設定の所は、どこの部分でしたか。

事務局：冊子の17ページからになります。

宇佐美会長：もう少し何か数字が持っている意味的なものを足せないかなと思います。

事務局：そうですね。この目標値は何とも。

宇佐美会長：何の数字かと思われてしまうのではないのですか。

事務局：ここの部分は、検討の余地がある所だと思います。

宇佐美会長：達成出来たら何、出来なかったら何というのが分からないと思います。

事務局：ここは少し見直します。

事務局：～「滝沢市地域公共交通網形成計画【概要版】」P8 下説明～

宇佐美会長：ありがとうございました。

今のご説明に対して何かありますか。よろしいでしょうか。

これで素案の説明は終わりになります。今日頂いた意見は事業者とお話する部分も色々あると思いますが、プレパブリックコメント等も踏まえ修正をして再度6月の会議で諮る予定となっていますので、よろしくをお願いします。適宜何かあれば事務局までご連絡頂ければと思います。以上をもって議事は終了です。審議へのご協力ありがとうございます。

事務局：議事進行ありがとうございました。

委員の皆様におきましてもご審議ありがとうございました。

5、その他

事務局：続いてその他になりますが、皆様から何かございますか。

特になければ、事務局から若干説明をさせていただきます。皆様のお手元にカラーの公共交通マップがあると思いますが、こちらについて説明させていただきます。

事務局：～「滝沢市公共交通マップ」について説明～

事務局：公共交通マップについては全戸配布させていただきますので、よろしくお願いいたします。

次に、4月1日から交通政策はまちづくりと一緒にやってやるという事で、都市計画課と交通政策課が一緒になりまして、都市政策課に名前が変わります。引き続きよろしくお願いいたします。

6、閉会